

学力調査等の状況
 ○全国学力調査の算数では、都の平均正答率との差は10%だった。図形領域の正答率を上げることができたが、依然として第一四分位は低く、個別指導に近い形式でないと、理解が深まらない児童も多数在籍している。また国語では、「思考・判断・表現」が全国平均を上回っている点では、昨年度までの国語の校内研究の成果がでたと考える。「知識及び技能」が全国の平均を下回っている。

見えてきた課題
 <学力調査より>
 ○算数の「思考・判断・表現」が東京都の平均を下回る結果から、算数の習熟度別指導で基礎・基本的な学習内容を定着できるように理解度に合わせた指導をする。そして学んだ知識を活かして自分の考えを記述する力を高めていく。
 ○国語の漢字を正しく使う問題や物語を読んで回答する記述式の問題において、全国の平均を下回っていることから、1~5年生までの学習の積み重ねを復習、日常的に学習した漢字を意識して使わせる。

授業をデザインする8つの取組について

価値ある対話の共有	本校の重点教育目標「かしこい子供」を目指し、校内研究で算数科に取り組み、問題解決学習についての授業研究を進める。事象を数理的に捉え、算数の問題を見出し、問題を自立的、協同的に解決できる力の育成を目指す。
見通しをもたせる導入	児童に何を学ぶか、どのように学ぶのか、見通しをもたせる。単元のゴールを明確にする。
ICT機器の活用	ク롬ブック等のICT機器を各教科の調べ学習やまとめの学習に活用し、主体的に探究する意欲・態度を育てる。また、ク롬ブックや書画カメラと大型提示装置を組み合わせ課題を提示することで、意見の共有・比較検討する授業の活性化を行い、情報活用能力の育成を図る。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	○漢字の読み・書きおよび語彙の習得など、自らすすんで辞書を活用していくことによって、言語に関する知識・理解の定着を図る。また、既習の漢字や言葉がつかえるように作文等で指導していく。 ○教科書の音読の宿題だけでなく、読書の宿題を出し、日常化につながるようにする。	○語彙の習得のために、読書と日記の宿題を毎週出し、指導している。 ○漢字を定着させるために、毎週漢字テストを行い、正しく書けるようにしている。 ○説明的な文章を読み取るときに、接続語や順序を表す言葉に着目して読み取りを行っている。 ○単元によって、ペアやグループで自分の意見や考えを伝え合う時間を確保するようにしている。	○文から読み取ったことや考えたこと、授業の振り返りを自分の言葉でノートに書いたり、発表したいする活動をより多くしていく。 ○聞き取ったことを、活用する機会を取り入れる。 ○漢字の読み・書きの習得は、毎週の漢字テストの実施だけでなく、反復練習を通して、日常的に漢字を使うよう指導する。	○週1回の日記の指導では、主語と述語のつながりや適切な文の長さ、誤字脱字に気を付ける等、相手を意識して文を書けるように指導する。 ○説明文の読み取りでは、「筆者の伝えたいこと」と「それを支える事例や理由」を明らかにして読み、理解を深められるようにする。 ○漢字の読み・書き及び語彙の習得は、テストのための練習にならないよう、日常的に継続して指導する。
社会科	○ICT機器を活用し、映像や資料を児童に見せることで理解を深められるようにする。 ○学区域や町田市のことを、地域の方々に話をしていただき、より理解を深めるとともに、地域に愛着をもてるようにする。	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○駐在さんから話を聞き、交通安全について理解を深めるとともに、地域に関心をもてるようにしている。 ○生活科学学習の中で、実際に見学をして地域との関わりを深めている。	○関係図やグラフ、写真などの資料の見方・考え方の視点を明確に示す。さらに、自分の生活と結び付けて考えるように意識づけることで、実生活と結びついた社会の成り立ちへの理解を深めるとともに、思考力・判断力を養う。	○地図帳や資料をもとに自分の考えを書くなど、記述式の問題を解くことができるように、毎時間視点を明確にしてグラフや図の読み取りを行う。 ○教科書等で分かりづらい所は、ICT機器を利用し、より理解を深められるようにする。
算数科	○東京ベージャックリルを積極的かつ効果的に活用し、できる学力の向上を目指す。 ○ユニバーサルデザインの手法を活かし、自分の考えを深め、思考力、判断力、表現力を高めることができるようにする。 ○ICT機器を使い、児童の考えを共有、比較し、思考力・表現力・判断力を高める。また、図形など苦手な児童がイメージできるようにすることで理解につながれるようにする。 ○日常的に、今年度の校内研究の視点を意識して学習指導に努める。	○東京ベージャックリル等を活用し、基礎基本の定着を図る。 ○宿題で前の単元の問題に取り組み、理解の習熟を図っている。 ○具体物や半具体物を活用して、思考力を高めている。 ○1単位時間の流れを形式化し、児童が見通しをもって主体的に取り組めるようにしている。 ○週一回の計算タイムやICT機器等を活用し、素早く正確に計算できるよう練習している。	○必要に応じて、具体物や半具体物を活用し、図形や問題をイメージできるようにする。 ○ベージャックテストの診断から、個人や学年の苦手傾向を掴み、伸ばす分野の対策に活用する。 ○授業の流れを毎時間同じにすることで、今何をすべきかを明確にする。	○東京ベージャックリルを積極的かつ効果的に活用し学力の向上を目指す。 ○問題解決型学習の1単位時間の流れを提示し、流れを理解して見直しをもって学習できるようにする。 ○ICTを用いて考えを伝え合う場面を工夫し、自分の考えをもちた友達の考えを聞いて考えを深めたりする。 ○目的意識をもって学習に取り組むことができるよう、課題提示や導入を工夫する。
理科	○ワークシートやノート指導の際、学習の流れを明確にし、児童が見通しをもち、主体的に取り組むことができるようにする。 ○映像や資料を大型テレビに映すことで、実際に行った実験と関連させ、理解を深められるようにする。	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○観察カードに目、鼻、耳、手のマークを記入し、具体的な視点をもって、観察できるようにしている。 ○観察カードの書き方(理科的視点)を意識させている。 ○生き物とのふれあいを通して科学的な物の見方を意識させる。	○自分の経験や前時までの結果をもとに予想を立て、学習活動への意欲を高めることで思考力・判断力を養う。 ○実験や観察の手順・結果などを明確に示し、理解を深める。観察シートなどは見本を示すことで取り掛かりやすくする。 ○映像資料や検索した資料を活用し、科学的なものの見方を身に付ける。 ○安全面に配慮し、起こりうる事故やケガなどを事前に明示して安全への関心を高める。	○問題解決の学習の流れを定型化することにより、児童が見通しをもって主体的に学習できるようにすることともに、プログラミング的思考力の育成を図る。 ○多様な視点や考え方に気づくことができるように、予想、計画、考察の際に考えを伝えあう場を設定する。その際、適宜ICTを効果的に活用する。

各教科における課題を改善するための指導の重点

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	○地域の方々を招いたり、体験学習を行ったり等、地域のよさを活かした学習を多く取り入れる。 ○オリンピック、パラリンピックを招く等、2020レガシーを意識した指導を行う。	○ボランティアコーディネーターに相談し、地域の方々を招いて体験学習等を行う。 ○自然と触れ合う機会をたくさんつくり、児童の発想や発見を生かす時間を取り入れる。 ○気付いたことを、言葉や絵で表現できるようにする。		
音楽科	○鑑賞したことが表現に結びつくような指導計画を立てる。どの児童も技能が習熟できるように、スモールステップを踏む授業を行う。	○リズム活動や拍子によって歌ったり演奏したりする活動を通して拍に乗って表現することに慣れ親しませる。 ○身近な打楽器を使っていろいろな音の出し方の工夫をしたり、友達と一緒に音あそびを楽しんだりする意欲を育む。	○リズム活動や階名読みの常時活動を通し、音楽表現に必要な基本的な知識の定着を図る。 ○手合わせや打楽器等、合わせられる楽しさを感じられる教材を選び、音楽表現に参加する意欲をもたせる。	○曲想や表現の工夫の理解のために、身体表現を用いて感じ取る時間を設ける。 ○二部合唱やアンサンブル等、役割を意識して音楽表現に参加する意欲をもたせる。 ○一斉学習の中で、活動の見通しをもって取り組めるよう、拡大表示等のためにICTを用いる。
図画工作科	○既習の材料や用具を自分の想いに合わせて活用できるようにする。思いに合わせて、材料や用具の選択、判断ができない児童に個別に支援していく。	○発達段階に応じた、用具の正しい使い方を身に付けさせる。 ○自分の思いに合わせて、形や色を工夫して扱い、楽しい造形活動を行う。 ○友達の作品の良さを見つけ、伝える活動を取り入れ、鑑賞の能力を身に付けさせる。	○発達段階に応じた、用具の正しい使い方を身に付けさせる。 ○自分のつくりたいものに合わせて材料を選択したり、色や形を工夫したりして造形活動ができる力を伸ばす。 ○友達の作品の良さを見つけ、互いの表現を認め合うことができる力を養う。	○用具の安全な使い方を理解し、目的に合わせて使用することができる。 ○自分のつくりたいものに合わせて、材料の特徴を生かしたり、形や色などから視覚的な効果や独創性を活かしたいして造形活動ができるようになる。 ○友達の作品や身近な美術作品を鑑賞し、様々な表現のあり方を感じ取れたりする鑑賞の力を身に付ける。
家庭科	○めあてを明確にし、見通しをもたせることによって、主体的に活動できるようにする。 ○スモールステップ型にしたり、学習形態を工夫したりして必要な力を身に付けさせるようにする。			○製作物や献立の計画を実際に行うなど、日常的な実践につながる活動を取り入れる。 ○縫縫や調理などの実習技術を身に付けさせるために、実習時間の確保や学び合いの場の設定をする。 ○実際に用具を使うことで、安全な使い方や技能を習得させる。
体育科	○学習の見通しをもたせること、毎時間のねらいをもたせ十分な運動時間と課題解決の時間を与えること、しっかり振り返り、価値付けることで、高まりを実感させ、一人一人の児童が次時の運動への意欲を高められるようにする。 ○ICT機器の視覚的に動きを把握できる利点を生かして、児童の体育への興味関心を高めることができるようにする。自身や友達の動きを確認したり、比較したりし、思考力・判断力を高めることができるようにする。	○基本の運動を通して、多様な動きを経験させ、体の動かし方をつかませる。 ○一人ひとりが楽しみながら、チームの仲間と協力してゲームができる意欲を養う。 ○早寝・早起き・朝ごはんを実行できるよう、児童への啓発を継続する。	○ゲームや協同的な学びを通して、運動の仕組みや作戦を伝え合い、思考力や技能を高める。 ○一人ひとりの課題に気付かせ、その課題を解決させていくことで、体力の向上につなげる。 ○早寝・早起き・朝ごはんを実行できるよう、児童への啓発を継続する。	○ゲームや協同的な学びを通して、運動の仕組みや作戦を伝え合い技能を高める。さらにICT機器を使うことで思考力を高める。 ○できる技を組み合わせたり、できそうな技に挑戦させたりすることで、できた喜びを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ力を育てる。 ○オリンピック・パラリンピック教育で、興味関心を高める。 ○早寝・早起き・朝ごはんを実行できるよう、児童への啓発を継続する。
外国語科	○HRT(学級担任)が中心となった、ALTと連携した指導や、英語担当教員による研修等を通じたHRT単独型指導の充実を図ることで、授業内容の質の向上を図り、児童に国際社会を積極的に生きていく力を育成していく。			○ALTや友達との外国語でのコミュニケーション活動やスピーチの活動を取り入れ、コミュニケーション能力を身に付ける。 ○簡単な文章で自分の事や聞きたいことを表すことができるように、話す・書く活動の時間を確保する。 ○さまざまな国の文化や習慣を学び、日本との違いや共通点に気付き、それぞれの国の良さを認めることができる力を養う。
各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

総合的な学習の時間	<p>○人との関わりを重視し、地域の自然・文化・歴史的遺産を生かした学習を展開しながら、自分を取り巻く様々な人々との活動を通して、心の交流を深め、生きる力を育む。</p> <p>○町田市小中一貫教育カリキュラムに基づき、規範教育、キャリア教育、食育等の指導内容と関連させた横断的・総合的・体験的・探求的な活動を通して、自ら課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題を解決する資質や能力を育成する。</p> <p>○地域連携担当教員やボランティアコーディネーターを中心に地域の人材を活用した体験的な学習を実施し、その学習を保護者に公開することで学校地域の連携を強化する。</p>		<p>○飼育活動(蚕)や地域のお囃子等、身近な地域の自然環境や文化を学習の場とし、ものづくりや伝統文化等の生産・文化的活動から、調べ学習や発表へとつなげ、課題解決に必要な技能を身に付ける。</p> <p>○Chromebookを活用し、情報を収集・整理して、伝えたい発表したい情報処理能力を育む。また、情報機器の取り扱いにあたって、リテラシー教育を行う。</p>	<p>○地域や社会に関心をもたせ、自ら設定した課題の解決方法を考えて、調べ学習を行う。</p> <p>○Chromebookを活用し、情報を収集・整理して、伝えたい発表したい情報処理能力を育む。また、情報機器の取り扱いにあたって、リテラシー教育を行う。</p> <p>○プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う。</p>
特別の教科 道徳	<p>○特別の教科道徳の時間を要として教科書を用いて、指導体制や指導法、資料選択・資料提示等の工夫を通して、生命尊重や人間尊重の精神を育成する。</p> <p>○毎時間の授業での児童の考えを記録することで、個々の成長を見取り評価に生かす。</p> <p>道徳教育推進教師が道徳授業の充実のための資料の扱い方、授業展開の工夫等を随時各学年に提供していく。</p>	<p>○身近な題材を扱うことで、自分の行動を振り返ったり、相手の気持ちを考えられるような心情を身に付けさせる。</p>	<p>○日常生活の中に見られる課題を取り入れたり、自己についてじっくり考える時間を確保したりすることで、日常生活の中で生かすことのできる規範意識や公共心を高める。</p> <p>○人と人とのつながりの中で互いの良さや違いを認め合い、相手の立場に立って考え、行動できる実践力を育む。</p>	<p>○人と人とのつながりの中で互いの良さや違いを認め合い、相手の立場に立って考え、行動できる実践力を育む。</p> <p>○SNSに関する題材も扱い、情報モラルと人権の大切さについて学習し、友達を思いやる道徳的実践力を高める。</p>
特別活動	<p>○学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事における活動の中で、児童の創意あふれる活動を計画的に設定することで、学校生活の充実を図り、協力してよりよい生活を築こうとする実践力を育て、豊かな人間関係を育む。</p> <p>○縦割り班を活用した活動を多く設定することにより助け合いや思いやりの心を育て、所属意識や集団としての向上心を高め、望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成を図る。</p> <p>○町田市小中一貫教育カリキュラムに基づき、学級活動において、規範教育、キャリア教育、食育の指導を通し、話し合い活動を充実させ、発表力や実践力の育成を図る。</p>	<p>○学級活動を通して、学校における生活上の問題を解決する話し合い活動を行い、話し合いを通して合意形成するよさを理解させる。</p> <p>○基本的な生活習慣や、約束や決まりを守ることの大切さを実感し、生活を良くするために目標を決めて行動できる実践力を養う。</p> <p>○縦割り班活動を通して上級生への憧れの気持ちを養う。また、異学年の集団活動で豊かな人間関係を築く。</p>	<p>○学級活動を通して、他者に理由を明確にしながら考えを伝えたり、異なる意見も受け入れたいながら集団生活ができる力を育む。</p> <p>○係活動やクラブ活動(4年)等を通して、自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動し、節度ある生活を送ることができる実践力を養う。</p> <p>○縦割り班活動を通して上級生への憧れの気持ちを養う。また、異学年の集団活動で豊かな人間関係を築く。</p>	<p>○学級活動を通して、多様な意見のよさを積極的に活かし、考えて行動ができる力を身に付ける。</p> <p>○クラスや委員会活動を通して、目標をもって粘り強く努力したり、自他のよさを伸ばし合うことができる環境を整える。</p> <p>○縦割り班活動を通して、下級生を思いやる気持ちや企画・運営する力を養い、望ましい集団の育成を図る。</p>
外国語活動	<p>○HRT(学級担任)が中心となった、ALTと連携した指導や、英語担当教員による研修等を通したHRT単独型指導の充実を図ることで、授業内容の質の向上を図り、児童に国際社会を積極的に生きていく力を育成していく。</p>		<p>○ゲームや動作化など、多様なアクティビティを体験することを通して、外国語に慣れ親しむ事のできる学習を行う。</p> <p>○ALTや友達との外国語でのコミュニケーション活動を楽しむ。</p> <p>○ローマ字の学習を行い、アルファベット表記の定着を図る。</p>	